

彩色及び切金線は後補のものではないかという御示教を得た。しかし同氏も現在のものが後補でも本来この像の衣文には、稜線に沿って切金がおかれていたものであらうと考えられているようである。

註七 昭和六年十二月発行「東洋美術」十三号所載明珍恒男氏「善水寺本尊薬師如来像」

註八 昭和三十三年十二月発行「美術研究」百九十九号所載拙稿「板光背像について」

註九 昭和三十九年十月発行「関東彫刻の研究」に本像について詳記しておいた。

本研究は昭和三十九年度科学研究費、「平安初期彫刻の研究」の一部である。

図版要項

一三 菩薩半跏像 (原色刷) 及部分

東京某氏蔵

一木造 彩色 像高 五六種

一一三 久野 健「銅製の垂髪をもつ菩薩半跏像について」参照

四 仏坐像 (カトラー出土)

インド マトゥラー博物館蔵

赤色砂岩 総高六九・二種 二世紀前期

五 仏立像 (三五年在銘)

インド マトゥラー博物館蔵

赤色砂岩 高一九三種 二世紀後期

六 仏立像

インド マトゥラー博物館蔵

赤色砂岩 高八二種 二世紀末

四一六 高田修「クシャーナ時代マトゥラー仏の編年的研究」参照

美術研究所報

「日本美術年鑑」の刊行

美術部第二研究室の編集にかかる日本美術年鑑昭和三十八年度版(昭和三十三年一月より十二月の間の記事)を三十九年三月三十日発行した。